

(西暦) 2019 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

日本での高齢者に適した都市環境の構築における作業療法の役割についての作業療法士及び関係者の視点

学位の種類: 修士 (作業療法学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号 18896701

氏名: 安齋 哲也

(指導教員名: ボンジェ・ペイター教授 )

【はじめに】世界で高齢化と都市化が進む中で、高齢者にとって住みやすい都市環境の構築が求められてきており、よりその様相が顕著な日本においても、高齢者に適した都市環境の構築は喫緊の課題といえる。作業療法においては地域を対象とした実践が着目されてきており、高齢者の作業に影響を及ぼし得る都市環境に対して何らかの貢献をすることが作業療法の役割であると考えられる。高齢者に適した都市環境の構築に焦点を当てた作業療法における報告は非常に少なく、その構築における作業療法の役割も明確にはされていない。そこで本研究では、作業療法士やそれ以外の関係者の視点から、日本での高齢者に適した都市環境の構築における作業療法の役割を探索した。

【方法】高齢者に適した都市環境の構築に関する実践を行った経験や知識を有する作業療法士や作業療法士と協働した経験を持つその他の職種の関係者を目的サンプリングによって募集し、Q-methodologyによる調査を実施した。当該領域における作業療法の役割を示した項目カードを作成し、対象者の主観に応じたカードの配置を求めた。専用の統計ソフトを用いた主成分分析とそれに続くバリマックス回転から15名のカードの配置の類似性を分析した。抽出された因子とその因子を構成する項目内容から、因子に所属する対象者によって共有された視点の内容を解釈した。

【結果】対象者は幅広い背景を持つ8名の作業療法士と7名の関係者であった。分析の結果、日本での高齢者に適した都市環境の構築における作業療法の役割として、*地域における生活活動の参加を促進する* (視点1)、*高齢者が主役となり、作業に関するニーズや視点を政策に反映させるための調整を行う* (視点2)、*心身機能の変化に応じた、作業に参加できる住環境の調整を行う* (視点3)の3つの視点が得られた。

【考察】本研究によって得られた3つの視点は、国内外の先行研究やその他の文献において着目されてきた作業療法の役割に関する提言とのいくつかの一致点が認められた。視点1は国内外の作業療法分野において着目されている地域における生活活動の参加を促進することの重要性と足並みを揃えた視点であった。視点2は先行研究で作業療法士による実践が確認されている社会・政治的な役割と一致しており、多くの文献によってその重要性が支持されていたが、国内外における実践例は多くない。視点3は唯一作業療法士以外の対象者によって支持された視点であり、心身機能に関する専門家として個別かつ具体的な支援に特化したものであった。その原因としては地域の実践を促す概念的基盤の不足や、関係者における作業療法に対しての個別対応を中心とした役割を担うという認識の強さが考えられた。さらにこれらの3つの視点によって示された役割は、その対象レベルが個人からシステム政策レベルにまたがっている点や、地域の作業に焦点を当てている点において、地域を対象とした作業療法実践の概念化に向けた先行研究と一致している点が見られた。本研究の結果から日本における高齢者に適した都市環境の構築においては、作業療法はこれらの3つの視点から実践に取り組むことが望ましいことが示唆された。